

<2021年度修学旅行研究会開催報告>

日 時：2021年11月16日（火） 場 所：名古屋都市センター会議室
発表校：美浜町立河和中学校 テーマ：コロナ禍での修学旅行 – 複数回の変更を経て –

【修学旅行のねらい】

- ① 経済・文化の現状について、実際の見聞を通して知識や理解を深める。
- ② きまりを守り、計画的に活動することを通して、高い社会性を身につける。
- ③ 互いの理解を深め、集団としての規律を守ろうとする力を高める。

【事前学習】

9月当初、愛知県でも1,000人を越える新型コロナウイルスの感染者が確認されており、緊急事態宣言が発令されていた。そのため、事前の活動内容を必要最小限にまとめた。細かなルールは随時生徒から募集し、級長を中心に休み時間に話し合いを設け決定していった。

【修学旅行の日程】

- 1日目 学校⇒（昼食）【コース別分散 ①鳴沢氷穴⇒水陸両用バス乗車体験 ②三島スカイウォーク】
⇒河口湖ペンション（泊）
- 2日目 河口湖ペンション⇒【コース別分散 ①富士急ハイランド ②忍野八海⇒サファリパーク】
（昼食）⇒八ヶ岳ロイヤルホテル（泊）
- 3日目 八ヶ岳ロイヤルホテル⇒【コース別分散 ①フォレストアドベンチャー②津金フィッシングセンター ③三和観光農園 ④オルゴール記念館】⇒ ドライブイン酒蔵（昼食） ⇒ 学校

【新型コロナウイルス感染防止対策】

- ・ 感染症対策に関する本校独自の修学旅行ガイドラインを作成した。内容は感染症予防対策、宿泊・食事施設利用上の対策、旅行中の体調不良者への対応、実施にあたっての判断基準などである。
- ・ 全行程貸切バスを利用し、バスの台数を学級数より多い4台に増やして1台当たりの人数を減らす。
- ・ ホテル、ペンションの部屋数を増やし、1部屋当たりの人数を減らす。
- ・ バスの乗り降りのたびに手指消毒を行う。
- ・ 生徒が体温計を持参し、毎日検温を行う。教師は生徒の健康状態を管理する。

【成果と課題】

- 「時間を守って規律のある行動ができた」、「礼儀正しく生活し、ペンションや訪問先から褒められた」、「仲間を思いやり3日間トラブルなく笑顔で過ごすことができた」など、学校生活全般を通しての学びが修学旅行で活かされた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策についてのガイドラインを学校で作り、保護者に配付し、多くの参加の承諾を得ることができた。修学旅行中も大きな体調不良者は出なかった。また対応に困ることは起きなかった。
- ▼ 10月の後半に修学旅行に行ったため、事後指導を行う時間がとれなかった。また、事前学習の時間を十分確保できなかったことから、学びとなった要素は多くなく、思い出作りに特化した旅行となってしまった。

2022年度は、碧南市立西端中学校の事例発表を予定している。

コロナ禍での修学旅行

～複数回の変更を経て～

校長 佐治 宏昭
教諭 飯島 幹俊



校舎外観

School Data

- 【創立年】 昭和22 (1947) 年4月1日
 【所在地】 愛知県知多郡美浜町河和六反田130
 【教育目標】 本校の目指す生徒像である「賢く・遅しく・美しく」の実現を図る。
 ○主体的に学び、自分の頭でよく考え、正しく判断することができる生徒
 ○心身共に明るく健康で、自他の命を大切にす生徒
 ○相手を思いやり、感謝の気持ちをもって人と接することができる生徒
 【全校生徒数】 328人 (12学級、内特別支援学級3学級)
 【教職員数】 34人

愛知県 美浜町立河和こうわ中学校

●学校紹介

本校のある美浜町は、知多半島の南部に位置し、東は三河湾、西は伊勢湾に面し、その東西両海岸に向かって広がる平地と、ほぼ中央を南北に知多丘陵が連なる面積46.20km²の温暖にして自然豊かな町である。

河和中学校は町の東部に位置し、校舎の2階に上がると三河湾を望むことができる。本校は昭和二一(1947)年に開校し75年目を迎える。生徒数は328名、12学級(特3含)の中規模校である。また本校は、元河和海軍航空隊基地の跡地に建てられ、現在も敷地内に貯水槽の基盤や正門の門柱などの戦跡が残っていることから、終戦の日に合わせてNHKの番組で紹介されたことがある。

実施要項

- 旅行先 静岡県、山梨県、長野県
- 時期 令和3 (2021) 年10月25日 (月) ~10月27日 (水) 2泊3日
- 実施学年 第3学年3クラス 生徒114名 (内特3名)
- 引率者 9名
- 日程概要

- 【1日目】 学校⇒(昼食)⇒〔コース別分散 ①鳴沢氷穴→水陸両用バス乗車体験 ②三島スカイウォーク〕⇒河口湖ペンション (夕食・泊)
 【2日目】 河口湖ペンション (朝食) ⇒〔コース別分散 ①富士急ハイランド ②忍野八海→サファリパーク〕(昼食) ⇒ほうとう不動 (夕食) ⇒ハケ岳ロイヤルホテル (泊)
 【3日目】 ハケ岳ロイヤルホテル (朝食) ⇒〔コース別分散 ①フォレストアドベンチャー ②津金フィッシングランド ③三和観光農園 ④オルゴール記念館すわのね〕⇒ドライブイン酒蔵 (昼食) ⇒学校 (下場所別解散)

はじめに

本校の修学旅行では例年、東京を中心とした関東方面を訪れている。当初の計画では、東京へ行き分散研修をすることで、美浜町との違いや、双方のよさに触れたいと考えていたが、首都圏において感染拡大が収まらなかつたこともあり、昨年度末の段階で関東方面での実施を断念した。

そこで生徒にグループで修学旅行プランを計画させ、プレゼンを行った。その中から、神戸市の「人と未来防災センター」や、淡路島にある野島断層を見学することにより、防災学習を軸とした修学旅行を実施し、生徒の危機回避能力を高めようと計画を進めた。

しかし、4月頃に大阪での感染者が急増したことにより、5月に予定されていた修学旅行を10月下旬に再度変更し、自然の中での体験活動が充実した静岡・山梨・長野方面で計画を立て、新型コロナウイルス感染防止対策を併せて施すことで可能な限り修学旅行を実施できるように考えた。

修学旅行のねらい

- ① 愛知県外への旅行により、経済・文化の現状について実際の見聞を通して、知識や理解を深める。
- ② きまりを守り、計画的に活動することを通して、高い社会性を身につける。
- ③ 旅行を通して、互いの理解を深めるとともに

●重点を置いた活動

屋外での体験活動をメインとしたコース別学習を取り入れることにより、感染症対策とできる限り生徒の希望を踏まえた行程

に、集団としての規律を守ろうとする力を高める。

修学旅行の事前指導

今年度は9月当初、愛知県でも1日1,000人を越える新型コロナウイルスの感染者が確認されており、緊急事態宣言が発令されていた。そのため、事前の活動内容を必要最小限にまとめた。細かなルール（もっていてもいい物服装など）は随時生徒から募集し、級長を中心に休み時間に話し合いを設け決定していった。

本校の新型コロナウイルス感染防止対策について

今回の修学旅行を行うにあたり、以下の対策を行った。

- ・ 感染症対策に関する本校独自の修学旅行ガイドラインを作成した。内容は感染症予防対策、宿泊・食事施設利用上の対策、旅行中の体調不良者への対応、実施にあたっての判断基準などである。
 - ・ 全行程貸切バスを利用する。またバスの台数を学級数より多い4台に増やし、1台当たりの人数を減らす。
 - ・ ホテル、ペンションの部屋数を増やし、1部屋当たりの人数を減らす。
 - ・ バスの乗り降りのたびに手指消毒を行う。
 - ・ 生徒に体温計を持参させ、毎日検温を行う。
- 教師は生徒の健康状態を管理する。

修学旅行の様子

①1日目

1日目は2つのコースに分かれて活動を行った。一方は、鳴沢氷穴の見学と、山中湖でKABAバスに乗った。KABAバスは水陸両用バスであるため、バスが水に入るときには生徒が大いに盛り上がりつつあった。もう一方は、三島スカイウォークへ行き、アスレチックとジップスライドを行った。アスレチックでは、安全装置を全員が着用し、高いところにあるアトラクションにも挑戦していた。生徒は苦戦しながらも、とても楽しそうに活動していた。その後500mを超えるジップスライド体験を行った。



水陸両用KABAバス



ジップライン (三島スカイウォーク)



忍野八海

◆生徒の感想

・鳴沢氷穴…人が作ったものだと思っていたけど、自然にできたものということを知り、自然のすごさを体感することができて良かった。

・KABAバス…水陸両用バスが軍用に作られたものだったと聞いて、それが今観光のために使われていることに驚きました。

・三島スカイウォーク…ジップラインに乗りながら見た景色はすごくきれいで、心が浄化される感じがしました。寒いということをお忘れさせるくらい素敵な景色で風も気持ちよかったです。

②2日目

2日目も2つのコースに分かれて活動を行った。富士急ハイランドコースでは9…30か



レンタルカメラで撮影する生徒(富士サファリパーク)

ら16…00まで活動した。班ごとで行動し、たくさんさんの乗り物に乗っていた。
もう一方は、忍野八海で、湧池、濁池、鏡池を見学し、30分の自由散策を行った。その後のサファリパークでは、サファリバスに乗りサファリゾーンを見学した。サファリゾーンでは、普段見ることのできない動物がたくさん見えたり、餌を与えたりすることができたため、生徒は大喜びであった。



富士急ハイランド

③3日目

3日目は4つのコースに分かれて活動を行った。フォレストアドベンチャーのコースは難易度の高いアスレチックだったようで、苦戦している生徒も多かった。バームクーヘン作りでは、4人で一つの班となり協力して活動した。竹を使用し、竹の回りに生地をつけて

バームクーヘンを作った。完成したものは持ち帰ることができた。オルゴール作りでは、オルゴール記念館でオルゴールの歴史を学んだ後、オルゴール作りを体験した。箱と曲を自分で選び、パーツを組み合わせて作っていた。金槌を使い音の調整を行い、オルゴールを完成させた。津金フィッシングランドにおける釣り体験では、ニジマスを釣り、自分でさばいて焼いて食べた。釣ることに苦戦していたが、自分で調理した魚はおいしいと言っている生徒が多かった。

◆生徒の感想

・バームクーヘンの作り方を初めて知りました。竹に生地をかけて回しながらどんどん焼いていきました。今までどうして真ん中に穴が空いているのか不思議だったけど、



バームクーヘン作り



フォレストアドベンチャー



釣り体験

竹をさしていたからなんだと知ることができました。

・男子3人でとてもテンションが低かったのですが、オルゴール作りがとっても楽しくて、テンションが上がりました。500年前のオルゴールを見せてもらい、とても大きくて驚きました。何百年前に作られたオルゴールなのに音がとてもきれいでびっくりしました。

・魚を釣るだけかと思いきや、その後さばいて焼いて食べるという活動がありました。釣るのは好きだけど焼いたり、さばいたりするのは苦手でしたが、この体験で本物の「命」の大切さを学びました。とても元気な魚にハサミを通し、内臓を取り出し、自分がいとも食べている魚もこんなだったなと思いました。肉・魚はこれから残したらいけないと思える体験でした。



オルゴール作り

◆全体を通した生徒の感想

・人と人は今の学校のように何年間も会い続けることもあるけど、多くは一度出会ったらもう会えづことが少ない、一期一会という関係だと思ふ。だからこそその一瞬一瞬を脳裏に刻むように思ふ出を強くかみしめることが一番のおみやげになると思ふた。こういうことは実際に旅に出てみないとわからないことなのでとても良いことを学ぶことができたと思ふ。修学旅行だからこそ味わえる楽しさや、受験生だからこそ味わえる苦しさがあると思ふ。だからどんなことにも一生懸命行つて、後々振り返ったときにあの日の自分は輝いていたと思えるくらい充実した日々にした。

成果(○)と課題(●)

○修学旅行のねらいが達成できたと感じる。

本校の3年生はきまりや時間を守ることができ集団である。日頃から学校生活ではチャイム前着席ができており、校則を守ろうという意識も高い。また行事にも一生懸命参加し、10月中旬の体育祭でも大いに活躍する姿を見ることができた。3日間の修学旅行の中で、「時間を守って規律のある行動ができていたこ

と」「礼儀正しく生活し、ペンションや訪問先から褒められたこと」「仲間を思いやり3日間トラブルなく笑顔で過ごすことができたこと」「これらは日々の生活をしっかりと送ったことで身につつき、それが学校の外に出たとしても発揮できたことだと思ふ。学校生活全般を通しての学びが今回の修学旅行では活かされていたと感じた。

●10月の後半に修学旅行に行つたため、事後指導を行う時間がとれない現実があつた。

また、事前学習の時間を十分確保できなかったことから、学びとなつた要素は多くなく、思い出作りに特化した旅行となつてしまつている。

おわりに

新型コロナウイルス感染症防止対策についてのガイドラインを学校でつくり、保護者に配付した。そのためか、多くの参加の承諾を得ることができた。修学旅行中も大きな体調不良者は出なかつた。また対応に困ることは起きなかつた。

今年度もなんとか修学旅行へ行くことができ、また、自分の行いたいことを選択して活動することができるようにしたため生徒の満足度はかなり高いものとなつたと感じている。今年度の経験も踏まえ、次年度以降の本校の修学旅行については、ねらいをより一層明確にするなど、行事としての位置付けについて改めて検討する必要があると感じている。